

## デュポン社の高性能なブラシ



世界で初めてナイロン製歯ブラシを販売したデュポン社のブラシは、大手メーカーも採用している信頼性の高いもの。EPEIOSはヘッドが小さめで日本人の口にぴったり合うのもポイントです。

ブラシの毛がやわらかく、歯茎への負担も少なそうですね

神保町タワー歯科・矯正歯科 越智信行院長



## 4つのクリーニングモード搭載



EPEIOSには「Clean」「White」「Sensitive」「Polish」の4つのモードが搭載されています。他メーカーの高級機になると、モード数ももっと多かったり、強度を変えられたりするので決して多機能ではありませんが、標準設定の「Clean」モードでしっかり磨けるので必要十分。むしろ、いたずらにモード数を増やして価格が上がってしまうよりは、このくらいがちょうどいいとさえ感じます。

## 使い勝手のよさも良好!



防水規格は一時的に水没しても大丈夫なレベルのIPX7。水でじゃぶじゃぶ丸洗いもできちゃいます。また、充電端子がUSB-Cで使い勝手がよく、1回の充電で最長180日も使えるのがスゴい。

長期間は試せていませんが、とても使いやすいと感じました

神保町タワー歯科・矯正歯科 越智信行院長



### 歯の汚れ落ちテスト

部位	Before	After	結果	コメント
前歯			良好	向かって右側の前歯は汚れ落ちが平均的でしたが、左側はほぼ完璧に汚れが落ちました。歯茎や歯間近くにやや汚れが残ります。
前歯の裏			微妙	凹んでいる部分に汚れが残る、「良好」相当の評価だった昨年ほど汚れ落ちを実感できず。ブラシを当てる角度のわずかな差で落ち方が変わった?
奥歯			優秀	今回のテストで最も汚れ落ちを実感できたのがココ。表面がほぼ元の白さを取り戻しています。昨年の結果と比べても同等の汚れ落ちでした
奥歯の溝			良好	一番奥の歯の汚れはしっかり落とせていますが、ひとつ手前の歯にわずかに汚れが残りました。とはいえこの部分の評価は全体で2位の好成績
歯間(前歯)			難あり	前歯の表面のテストでも感じていたことですが、今回は歯茎付近や歯間など、カーブがきつくなる部分に汚れが残ってしまったのが残念
歯間(奥歯)			微妙	前歯の歯間に比べると、まだ汚れは落ちているのですが、スキマの汚れをかき落とすまでには至らず。とはいえやはり表面に近い部分はキレイ

# 1位 使いやすいくて価格も安い!



並み居る強豪を退け  
2年連続ベストバイ

2022年2月発売

## EPEIOS 音波電動歯ブラシ ET003

実勢価格▶5980円

SPEC ●サイズ/W2.8×D2.8×H18.4cm・132g

- 音波振動式
- 本体丸洗い
- 132g
- 4モード搭載
- 180日運転

- 前歯も奥歯もしっかり磨ける
- 一度の充電で長期間使える
- 約6000円とリーズナブル
- ×歯間の汚れ落ちが弱いかも

## 2年連続トップ評価 EPEIOSの強さのヒミツは?



毛がやわらかいブラシは、テストで汚れが落ちづらい傾向がありましたが、EPEIOSはやわらかめながら汚れがスルスル落ちました。ブラシやヘッドのサイズ感が絶妙なので、しっかり歯にフィットするのかもしれない

2023年の電動歯ブラシ最強決定戦の覇者は、エペイオス「ET003」に決定! 実はこの製品、昨年もベストバイを獲得しており、今回はベンチマーク的な存在として再エントリーしていたのですが、2連覇達成となりました。一度だけなら前回の対戦相手がよかっただけという可能性もありましたが、今回の結果を見る限り、もはや実力の高さは疑いようがありません。

エペイオス社は、2020年設立と歴史は浅いものの、質の高いデザイン家電をラインナップする、いま売り出し中の国内発のブランド。その認知度を高めるきっかけとなったのが、累計販売本数が3万本を超えた(2023年1月時点)という、この電動歯ブラシです。

本製品が誌面に初登場した昨年のテストでは、歯の表面や側面だけでなく、難易度が高い奥歯の溝や歯間の汚れまでしっかり除去。それまで王者だったバナソニックをはじめ、名だたる大手メーカーの製品を上回るブラッシング力を見せ、編集部一同を驚がくさせました。

また、振動が強すぎず、毛がソフトで歯茎への負担が少ないことも、歯科医や一般モニターから好評。加えて、数万円クラスがごろごろ転がっているなか、約5000円(当時)で買えるコスパの高さも魅力でした。

その性能やコスパを再認識させられたのが、今年のテストです。人工

2023年の電動歯ブラシ最強決定戦の覇者は、エペイオス「ET003」に決定!